

第3回河川再生国際会議に参加して



技術普及部長 吉川 勝秀

1. はじめに

2004年5月17日～21日の間に、クロアチアの首都ザグレブでECRR (European Centre for River Restoration) 主催による第3回河川再生国際会議 (3rd ECRR International Conference on River Restoration) が開催された。この国際会議はヨーロッパ各国を中心に河川再生に携わる人々が一堂に会し、各国における河川再生に関する事例や制度的な取組みを紹介しあいながら、経験や知識を交換・共有することを目的として4年に一度開催される。

2. 参加の目的と得られたこと

この国際会議で筆者は” On the Progress of River Restoration and the Future View in Japan and Asia”という題目で基調講演を行い、日本における河川管理の経過や近年の河川再生への取組み事例等を紹介するとともに、アジアに軸足を置いた河川環境等情報ネットワーク (以下、アジア・ネットワーク) の構想について紹介し、参加を呼びかけた。この国際会議を主催するECRRは、ヨーロッパにおける自然環境等のネットワーク (以下、ヨーロッパ・ネットワーク) を主催・運営している団体である。会議にはヨーロッパ・ネットワーク関係者も多数参加していた。このヨーロッパ・ネットワークの情報を収集し、交流することも参加目的の一つであった。



River Restoration 2004
論文集



基調講演

会議にはアジアから筆者を含め4名の講演者が参加した (日本2人、中国1人、韓国1人)。アジアの事例に対する参加者の関心は高く、各講演後には積極的な質疑応答がなされた。本会議の運営役に勤めたLujio Tropan氏 (Croatia) も終了セッションにおいて「今後もアジアからより多くの方の参加があることを望む。ヨーロッパとアジアの協力関係を築いていけたらと思う」と挨拶をされた。質疑応答以外にも、会議中のプログラムとして企画されたZagreb郊外やCroatia国内の国立公園への視察を通じて、ヨーロッパにおける自然再生に関係する方々と交流を

持ち、アジア・ネットワーク構築に向けて有益な情報を収集できた。

ヨーロッパ・ネットワーク及びそれを主催・運営するECRRに関して調査した内容は以下のようである。ECRRとはヨーロッパ各国の自然再生関係者の交流を仲介する組織であり、ヨーロッパ各国における河川再生についての知識・経験を集積・普及することを目的に1995年に設立された。ヨーロッパ・ネットワークは、ECRRを通じてのヨーロッパ各国の河川再生関係者間の情報・人的ネットワークのことである。ECRRのホームページのURLは<http://www.ecrr.org>である。事務局は4年毎に交替しているが、現在はオランダのRIZA (内水・廃水処理研究所) が務めている。

3. ドナウ川とその沿川の水辺調査

ハンガリーの首都ブダペストは『ドナウ沿川で最も美しい町』といわれ、市内のドナウ沿川には中世からの建築物が建ち、統一した景観を作っている。この景観の統一は新たな建築物に対する建物の高さ、外壁の装飾や材質の規制によって保たれている。市内のドナウ川は100年確率の洪水を想定した直立のコンクリート護岸になっている。川に沿って幹線道路が走っていることもあり、水辺へのアクセスはあまり良くない。



ブダペスト市内のドナウ川



ウィーン近郊のドナウ川

ブダペストからドナウ川を遡るとオーストリアの首都ウィーンがある。ブダペスト近郊を抜けるとドナウ川両岸はコンクリート護岸から河川舟運に対応しつつ設けられた水制や石を積み上げただけの浸食防護工へと変わり、航行用に堰を設けて運河化された湛水区間は人工河川となっている。ウィーン近郊のドナウ川はかつて氾濫を繰り返したため、前世紀後半に現在の直線的な河道に改修された。さらに1960年代以降、洪水防御のために高水敷内に新放水路ノイエドナウが掘削された。ウィーン市内にはドナウ運河とウィーン川が流れている。いずれも古い時代から整備された人工河川である。ドナウ運河には観光船が航行する。ウィーン川はコンクリート三面張りの人工河川であり、一部区間は暗渠化している。